

第3回 みどり市立学校適正規模・適正配置大間々地区検討委員会 議事録

○日 時 令和8年2月3日(火) 午後7時00分～午後8時45分

○場 所 大間々庁舎 3階 大会議室

○出席者

【みどり市立学校適正規模・適正配置大間々地区検討委員会委員】13名

委員長	田口 和人
副委員長	備海 忍
委員	新井 博介
委員	大江 潤一
委員	鈴木 義雄
委員	河内 良範
委員	今井 俊彦
委員	富所 哲平
委員	今泉 喜美
委員	松島 千里
委員	植木 文貴
委員	竇木 政則

【みどり市教育委員会】 9名

みどり市教育委員会	教育長	保志 守
みどり市教育部	部長	金高 吉宏
教育総務課	課長	今泉 源太郎
学校教育課	課長	神山 亮一
教育総務課	課長補佐	園原 裕一
学校教育課	課長補佐兼指導係長	知久 鉄平
大間々学校給食センター	所長	大賀 康史
教育総務課施設係	係長	大窪 進
学校教育課教職員係	管理主事	西村 晋一

【報道機関】 桐生タイムス社

【傍聴者】 2名

○議事の概要

1 開会 [開始：午後7時00分]

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 第4回以降の地区別検討委員会について

・事務局より第4回以降の地区別検討委員会について、以下のことを説明し、委員から了承をいただいた。

○地区別検討委員会のゴールは、諮問の内容について教育委員会に答申をしていただくこと。

○地区別検討委員会は年3回の開催予定で、本日予定どおり第3回を実施させていただくが、答申をしていただくには令和8年度に第4回以降の地区別検討委員会開催が必要と思われる。

○年度が変わり、区長さんやPTA会長さん等が別の方になるかもしれないが、規則第4条にあるとおり、令和8年度も現在の委員の皆さんに委員を継続していただきたい。

(2) みどり市全体の一体感の醸成の推進について

・前回の協議内容の概要と得られた方向性、今後の協議内容について、【資料1】に基づき、委員長から説明。

発言者	発言内容
議長（委員長）	意見の概要の①、得られた方向性の①に関わって、(2)の協議に入りたいと思います。前回の委員会では、3地区別々に考えると既成概念にとらわれてしまう、みどり市全体として俯瞰して見ると違う考え方が出てくる、といったご意見もありました。ここにつきましては、前回の委員会での委員1さんからの話から設けています。あらためて委員1さんからお話しただけですでしょうか。
委員1	パブリックコメント以来、毎回同じことを述べていますが、みどり市として合併したわけですから、旧3町村毎に計画を作るのはおかしいと思います。みどり市一体としての計画にすべき。「一体感の醸成」とは言っていません。人口バランスや子どものバランスなどについてみどり市全体を見て、本来どうあるべきかということを考えれば、学校の配置はおのずと変わってくると思います。もう一つは、計画を見ていくと、笠懸地区で笠小を建設したいということが見え見えだと思えます。他の学校はリフォームすることによって耐用年数を60年から80年にすると書いてあるのに対して、笠小だけは数年後耐用年数60年を超えるので立て替えたいと書いてるので、引っかかったわけです。笠小だってリフォームすれば80年もつのではないか。その20年の間に子どものバランスも人口構成も変わると思えます。おそらく少子化するでしょう。また、笠小建設の理由付けとして「笠西小と笠小が近すぎる」と言っているが、今頃何を言っているんだと思う。笠西小を建設するときその議論もしているはず

	<p>です。笠小を作り直す理由にはならないと思います。さらに追い打ちをかけたのが、夏場の猛暑対策。徒歩通学4kmを3kmにするとあるが、これで本当に猛暑対策になるのか。他の自治体ではバス通学をしています。体の弱い子はバス通学でいいと思います。体が丈夫な子は4km歩いてもいいと思います。選択させればいい。本当にこれが猛暑対策であれば、学校ができるまで何年待たせることになるんだと。バス通学だったら翌年からできるでしょう。これも笠小を立て直す理由にはならないと思います。笠小を建てたいがためにシナリオを作っていることが引かかっています。笠西小を作る時にも同じことが問題になりました。なぜ笠西小を作ったのか、この時の反省が全く生かされていないと思います。笠西小を作ろうとしたときも、大間々南小と4km離れていないのだから、例えば国道50号から北側の児童を大間々南小に通学させてもよかったですのではないかと。アバウトな話ですが。1, 2年生がかわいそうだというならばバスを使えばいいと思います。当時、大間々地区は北部から大間々北小にバス通学をさせていました。大間々はバス通学をさせているのに、笠懸は新しく作るというのはおかしい。大間々南小には空き教室がたくさんあるし、子どもたちもすぐに仲良くなるでしょう。人口バランスから言っても笠懸地区から来る子どもたちのほうが多いくらいだから。みじめな思いをすることもないでしょう。無理やり笠西小を作ったことで何が起きているかということ、強引に笠西小を建てようとした人の政治資金収支報告書を見ると、建設した会社のグループ、業者たちから合計で約103万円が毎月、4年間その人の口座に入っています。笠西小の建設を一生懸命リードした人の口座です。極めて不透明。これは私だけがキャッチしたのではなく複数の市議会議員から耳に入ってきた話です。だからそこそこの議会関係者も知っているだろうし、教育委員会もそこそこ知っているはず。知っていながらなぜ強引な箱もの建設のシナリオを作るのか。こういった観点で、パブリックコメントからずっと意見を出しているわけです。「一体感の醸成」というようなレベルではない。もっと透明感のある学校配置計画、規模の検討、地域ごとの子どもの人口バランスを考えて白紙に返って配置したらどうということになるか。その空白地域に学校を建てるならばいいだろうし、おそらく空き教室があるだろうから空き教室をうまく使うというような考え方が我々民間企業出身者の考え方です。使えるものを使わないでお金をかけて。税金ですよ。30億40億のお金をかけるならば、インフラの整備などみどり市には他にたくさん課題があるわけです。大間々地区がなぜ過疎化するのか。それは働く場がないから。または働く場へ行く通勤道路の渋滞がひどいから。こういったところにお金を使うならば有効な使い方だと思います。いろいろな学校を作る必要はない。そういう観点で、この計画そのものがおかしいのではないかと、極めて不透明であるという意見を申し上げました。概要は以上です。</p>
議長（委員長）	<p>委員1さんの意見をもとにいろいろとディスカッションをしていきたいと思いますが、一つ確認したいことがあります。ある人に対する103万円のお金が4年間に及んでという話がありましたけれども、それは委員1さん自身が</p>

	そういうエビデンスをご覧になったのですか。
委員 1	群馬県のホームページを開いて「群馬県選挙管理委員会」をクリックする。そこに「自民党支部」「自民党山田郡支部」という表示が出てくる。そこにその人の名前が出てきます。教育委員会の方にも伝えてありますから、おそらく調べてあるだろうと思います。県庁の公の書類ですよね。誰でも見られるようになっています。決して誹謗中傷の類ではないです。一般の人たちはなかなか公には言葉にできないです。陰ではあれこれ言っていますけど。でも教育委員会は笠西小を建設したわけですから、当然その辺りのことは把握しているだろうと思います。そういった中で、また建てる必要のない笠小を作るのですかという疑問がわきました。
議長（委員長）	今のところについては事実確認をただけです。委員 1 さんからご意見がありました。前回から引き続いてのものではありますが、委員 1 さんのお話についてご意見やご質問はありますか。
委員 1	教育委員会としてどう捉えているか、当事者として。おそらく調べた上でどう対処しようとしているのか。新たに笠小を作ろうとするからには、あるいはこういった検討をするからには笠西小の建設について分析評価をしているはずですよ。どういう事実関係を踏まえてこういう計画を建てているのか、なかなか答えが出ていないですね。一番は当事者である教育委員会の教育長さんから、この件についてどうお考えなのかお聞きしたいです。
議長（委員長）	一つ確認ですが、それはホームページに掲載されているのですよね。それは笠西小がらみなのかどうなのかはその書類からは推測できないのであって、あくまで政治資金収支報告書で公にされているという話ですね。
委員 1	それは教育委員会の方にもホームページを調べれば出ていと伝えていますが、その人が笠西小建設に対してリーダーシップを奮った人であるかどうかというの、教育委員会の方、ましてや教育長さんならご存じだと思います。
議長（委員長）	これについて事務局から応答できますか。
事務局 1	選挙管理委員会のことについては、私は確認しておりません。ただ、委員 1 さんのお話にあった業者との関係があるから笠西小を建てるというような議論をしたことはありませんし、そういったことを前提に考えたこともありません。笠西小を作るにおいて地域の方々と必要な議論を重ね、笠小のマンモス化をいかに解消していくかということに焦点を当ててしっかりと場所等も確認してきました。確かに近いという意見もありましたけれども、そこが適地であることを確認し合いながら進めてきた経過があります。政治的な部分は一切そこには入っていないと確信しています。
委員 1	何を話しているのかわかりません。もう少しはっきりと話してもらわないとわかりません。
議長（委員長）	私はわかりました。マイクを持って話していただきましたから。
委員 1	では委員長さん、何を話したかリポートしてもらえますか。
議長（委員長）	笠西小を作るにあたっては、地域住民の方々の意見を十分配慮しながら、聞

	<p>きながら進めてきた。したがって、政治的な意図や関係が背後にあることはない。ということが教育委員会の認識であるということです。そして、群馬県のホームページにある政治資金収支報告書については確認はとっていないというお話でした。</p>
委員 1	<p>それでは議論はかみ合わないです。一番の核心の部分ですから。それから、事前に住民の意見を聞いたというのは当たり前、一般論であって、そこでどういう意見が出たとか一切述べていないです。要するに意見を聞いたというだけ。それでは何の意味もない。</p>
議長（委員長）	<p>意見を聞いたというところは大きいと思います。そういうことをやって決めていったわけですから。そして、政治的な意図等はないと教育委員会は発言していますから。</p>
委員 1	<p>政治的な意図があったとは口が裂けても言えないでしょう。だからあいまいな答弁をしているんです。こんな議論をしても意味がないでしょう。結論から言えば、群馬県のホームページにあると教えてあるんだから、調べれば一目瞭然で回答が出るわけです。ことを始めるにあたって説明会をしました、意見を聞きましたなんて誰だって言えます。そこでどんな意見が出たのか、それにどう対応したのかが問題です。</p>
議長（委員長）	<p>委員 1 さんが今のお話とは別に「みどり市全体で議論しなければ。3地区それぞれでやっても意味がない」というお話を冒頭にされました。ここについては、みどり市全体での適正規模・適正配置の委員会を開いて、私はそこで委員長をしまして、そこで委員の皆さんの意見を十分聞きながら議論を進め、地区ごとに検討していこうという結論に至って進めています。それを、この段階でもう一度全体に返せというのは、会議の進め方として了解できません。</p>
委員 1	<p>自分たちはみんなの意見を聞きながらやってきたんだと。それはそうかもしれない。だけどみどり市は合併しています。なんで旧3町村に分かれるのか。なんでこんなローカルで計画を立てなければいけないのか。部分最適であって全体最適になっていないと思います。部分最適にもなってない。自分たちが作業をやりやすい最適。計画を作るには労力がかかりますよ。データも必要です。そういったことを無視して作りやすい方からやろうとするのはおかしいと思います。民間企業からすればありえない話です。部分最適、自分最適。では全体で見たらどうなるのか。ひっくり返りますよ。ひっくり返ってまた白紙からまたやり直しましょうというのが我々民間企業の発想です。せっかくここまで部分部分でやってきたんだからそれを押し通そうなんてことは考えません。そんなことをしていたら会社が潰れてしまいます。税金でやっていて自分の腹は痛まないから、まあしょうがないこれで行きましょうという話は市民をないがしろにしていると思います。せっかく委員に選ばれたからには、労力をかけてデータをとってやるのが本来の姿だと思います。まして教育の話、学校配置の話です。税金を使ってやる仕事ですから、そこに対する重みを感じないといけない。もう少し考え直したほうがいいのではないかと、白紙から考え直した方</p>

	がいいのではないかと私は思っています。
議長（委員長）	ご意見としては分かりました。皆さんから何かご意見はありますか。
委員 2	<p>そもそも2番の問いかけの「みどり市全体の一体感の醸成の推進について」というのが、委員1さんのおっしゃっていたこととずれていると思います。多分委員1さんがおっしゃっているのは、「みどり市全体の一体感ある検討委員会になっていないじゃないか」ということだと思います。そもそもこの議題が誰得でもない議題になっているので、3に移っていいのではないかと思います。2を検討している必要はないと思います。もし「みどり市全体の一体感の醸成の推進について」だとしたら、例えばですけど、みどり市内の全学校で1つの歌を必ず歌うようにするとか、そういったことで学校間の一体感の醸成の推進というのは進められると思います。でも委員1さんはそもそもそこを話にしていなかったということなので、「みどり市全体の一体感ある検討委員会になっていないじゃないか」という問いで言うと、今からだと例えば、私も白紙にするのは無茶だと思うので、3地区の検討委員会の議論をもう少し密に共有して、大間々の検討委員会での議論を笠懸の検討委員会で共有する程度のことがせいぜいできる限りかなと。これが2番に対しての意見です。</p>
議長（委員長）	ご発言いただきましたが、他の方はいかがですか。
委員 1	<p>「一体感の醸成」というのは私が発言したものではないと了解しているわけですね。そういう意味で言っているのではないと。それはそれでよかったと思いますけれど、計画を作ったのだから実行しようというのは歴史で習った気がします。日本の陸軍が自分たちの計画を作ってあちこちで戦争を拡大させて第二次大戦に発展していくわけです。誰かが気が付いて白紙に戻れと言っていれば第二次大戦にはなっていなかったと思います。たとえ話にするとこういうことです。計画を作ったのだから実行しなければいけないということは違うと思います。違うと気付いたなら、やっぱり最初に戻ってやり直そうということです。ものができてしまったら終わりです。作らなくていいものを30億円40億円かけて作ってしまったら無駄になります。計画作りでは何十億円という損失にはなりません。作った人たちは「せつかく作ったのに」という残念さはあると思いますけれど、みすみすものを作って30億円40億円を使うことに比べたらいいのではないかと。気付いた時点で元に戻るということはどこの世界でもあることです。スポーツだって何だってそうです。失敗しても元に戻って練習し直します。計画を作ったから実行しなければいけないなんて、一番危険な発想だと思います。気が付いた時点で元に戻る、これで本当にいいのか、30億円40億円が無駄遣いにならないのか、これを考えてほしいのです。ぶっ壊すことが目的ではありません。後々の人たちにとって本当にいいことなのか。負の遺産を残すことになります。こういうことはざらにあります。一番話題に出るのが桐生女子高校を梅田に持って行ったこと。持っていく前に誰かが気付いてストップをかければよかった。おかげで女子学生は散々たる思いをしました。そんな町に魅力を感じなくなって、町から出て行ってしまったんです。こ</p>

	<p>れは氷山の一角で、あちこちで同じようなことをしています。やらなくていいことをやってしまう。誰もストップをかけない。桐生の新庁舎の建設だってそうです。おかしいことをやっていると誰かが気付いているはずですが、それでどうにもならなくなって誰かが埼玉の警察に飛び込んだわけです。あんな事件になる前に内部で気付いている人がいたはず。入札関係の仕事をしている人とか。頻りに業者が出入りしているから変だなとか。そこでストップをかけていればあんな大事件にはなっていないかと思えます。しかも、人口が半分になってしまいそうなところにあんなデラックスな新庁舎はいらないです。何のために作ったのか。市民から見れば、お金を使うために作ったのかということになってしまいます。そういう悪い結果を出さないために、途中の段階で気が付いたらふりだしに戻って考え直すべきではないかというのが、私たち民間企業人の発想なんです。</p>
議長（委員長）	<p>先ほど計画という話がありましたけれども、この委員会としましては、みどり市全体での委員会での答申を踏まえて、そしてそれぞれに分かれて具体的に検討しようという流れで進めているところで、まだ先のことは何も決まっていないです。3地区それぞれのところでより具体的なものとして出そうというところの途中なんです。ですからその途中の中でいろいろご意見を言っていて、それをこの会議の中で議論していく形です。全体の委員会があつて3地区の委員会に分かれていくという流れから外すわけにはいきません。委員会の進め方として。それぞれの地区で検討を行う中で、状況によって笠懸の話と共有しながら議論するような展開は可能だと思います。これをみんな統合してみどり市全体の委員会を作り直してそこで検討するというのは、計画というより手続きとして進めた話ですから戻すことはできません。</p>
委員 1	<p>何と言ったらいいのでしょうか。手続き論なのか、仕事の進め方論なのか。要は必要ないところに巨額のお金を使いたくないですよという発想なんです。そこは理解していただけますか。</p>
議長（委員長）	<p>はい。</p>
委員 1	<p>みどり市の場合は、いったん計画を作ってしまうとそのまま建物が建ってしまうんです。今までの例からすると。おかしいおかしいと言いつつも建ってしまうんです。だから今の時点で言っているんです。実例を挙げると、今何十億円かけて温泉施設を作っていますよね。温泉審議会の委員から5年も前から区長会で取り上げてくれと意見が出ていました。お湯が毎分30ℓしか出ない。これで大規模な温泉施設を作った場合に浴槽がいっぱいになるのか。24時間かかってもいっぱいにならないではないか。そもそも浴槽の容積も出ていない。でも建物の面積を考えれば相応の広さの浴槽になるであろう。今分かっているのは40人入れるお風呂が2つできる、露天風呂が1つできる、家族風呂が2つできること。つまり、およそ100人規模の浴槽になる。</p>
議長（委員長）	<p>少しまとめていただけますか。</p>
委員 1	<p>一度始めてしまうと最後まで行ってしまうということです。温泉審議会でも</p>

	<p>ずっと話題に出ていました。区長会でも議題に出たのでいつから出ていないのか聞くと、昔は売るほど出ていたけど東日本大震災を境に出ていないと。では井戸がおかしくなっているのではないかと、ボーリングをして調べたらどうか。普通は調べると思うが、調べないで建設を続けている。このように一度計画を立てたらそのまま最後まで行ってしまうのです。今回も同じです。計画の時点だからとか全体会議に諮らなければいけないとか、そういう言い訳のもとに計画を完遂させてしまう。そうすれば建物ができてしまうんです。</p>
議長（委員長）	<p>そういうところが懸念されるということでお話をされているわけですね。委員1さんの意見に対して皆さんのほうからご意見はありますか。</p>
委員3	<p>事務局の方に伺いたいのですが、笠懸地区と東地区は今年度中に終わりそうでしょうか。検討状況、見通し、スケジュール感をもし可能であれば共有いただけたらと思います。</p>
事務局2	<p>笠懸地区は3回終わったところで第4回を行うことが決まっております。その後のことはまだ決まっておりません。東地区についても第4回を行うという方向になると思います。それが今決まっていることです。先ほど委員1さんの発言の中に、「みどり市全体の配置規模が見えてくるはず」というご意見があったと思います。「計画が決まっているわけではない」という委員長さんのお話もありました。ですから、全体を見通した話をこの場で議論していただくこともできると思いますので、ぜひこの先の議論に進んでいただけるとありがたいと思います。</p>
委員4	<p>最大の問題は、委員1さんが言っている「笠小を新しく作るのだろう」という話ですけれども、笠懸の検討委員会では、そういう方向で話が進んでいるのでしょうか。「笠小が老朽化している」という理由で一般の方からも笠小を新設したいという意見が出ているのでしょうか。</p>
事務局2	<p>まだ検討中ですので結論が出ているわけではありません。笠懸の方では、現在の4校配置がいいのか3校配置がいいのかという議論をしているところです。また、もっと長い先を考えると、笠小の老朽化だけでなく笠東小や笠北小の老朽化も出てきます。そういうことになると4校配置や3校配置だけでなく、耐用年数80年を過ぎると2校になってしまうかもしれない。そういったことも考えていかなければいけないねという議論が出ています。</p>
委員4	<p>いわゆる「一体感の醸成」という部分で我々が子どもたちに望んでいるのはみどり市の学校としてなので、「笠懸の方は4校か3校がいいのではないかと」という話で進んでいます」ということでしたが、もっと将来の部分で考えると、仮に笠小を作ったとして次に老朽化の話になると大間々中学校が出てきます。その時には、今の状態で行くと大間々の子どもたちは激減しているので、大間々からバス通学で笠懸にという話に広がっていく可能性があるのではないかと思います。そうすると大間々の住民としては好ましくないなと漠然と思っています。委員1さんが言ったように、東は離れているので話に入れないのは心苦しいですが、もっと根本的に、みどり市の小学校、中学校という見方で検討して</p>

	<p>いくべきだと思います。笠懸は笠懸の区域の中で今の学校区域をリニューアルして何とかやろうということですが、みどり市全体という見方で笠懸と大間々の境を取っ払って考えようとしたときに、3地区が分離して議論する中で「笠懸のことには口を出すな」というような会議の持ち方では、将来が危ぶまれると感じています。</p>
事務局 2	<p>今お話をしていただいたことがまさに核心をついていることだと思います。その話に続いてどうすべきかという議論をしていただくことがこの場かなと思います。よろしくお願いいたします。</p>
議長（委員長）	<p>今の話も含めまして、協議事項の2については表現が適切でなかったかもしれませんが、笠懸での話、大間々での話も含めて考えるというような側面が入っております。</p>
委員 1	<p>「一体感の醸成」という言葉が入ってくるとややこしいので消してほしいです。「一体感の醸成」なんて今まで話題になっていないわけですから。私が言っているのは、あくまでもみどり市としての計画を作ったらどうですかということです。物事を単純化して考えてほしいです。笠懸の学校配置ではない。大間々の学校配置ではない。大間々も笠懸も今は境がないくらいくっついていて、一体なんです。まして合併しているんです。もっというならば、桐生市の新里から越境通学している子どももいます。そのことを考えれば、同じ市内の子どもが、50号より北に住んでいる子どもが大間々の学校に来たっておかしくないと思います。それこそみどり市の一体感そのもの。すぐ仲良くなる。この発端は、余計なお金を使わなくてもいい、お金をかけて大間々と笠懸を分断するようなことになるのはよくないということです。3地区で検討委員会を作っていること自体が分断計画なんです。学校の適正規模・適正配置を検討する教育委員会が、子どもを教育する立場の人たちがこんな分断計画を作っているのかという単純な問いです。合併して20年経つのです。東地区は遠く離れているからと言うけれども、東地区のことも考えなければいけないでしょう。東地区に対する考え方と笠懸地区に対する考え方はずいぶん矛盾しているように見えます。物理的に確かに離れすぎている、通学距離からしても離れすぎていると思います。東で考えなければいけないのは、同じような学校が隣の黒保根にあることです。そのことを踏まえて考えれば、東地区だけではなくて東と黒保根で考えることもできると思います。人的な交流、校舎という物理的資産の有効活用、こういった観点から桐生市とみどり市だから別という考えではなく、隣接しているからという考え方もあると思います。</p>
議長（委員長）	<p>みどり市全体での適正規模・適正配置検討委員会のところで答申を出して、基本方針というものが出ています。ご覧になられていると思います。ここに3地区に対しての案のようなものが出ています。ですから大間々で議論するときにも笠懸の様子を見ながら議論してかまわないと思います。そういうものとして基本方針は用意されています。それと、確かに東は適正規模・適正配置の観点からするとすでに検討は済んでいますから、東については子どもの数が非常</p>

	<p>に少ない問題をどうするかを検討しています。その中で黒保根との関係を模索されてもいいですね。それを進めていくうえで、それぞれの委員会でどんな案が出ているのかを共有しながら議論を進めていく。そして、みどり市全体の配置としてどんな計画が立てられるのかという議論を重ねていくというスタンスでこの委員会は行われています。</p>
委員 1	<p>私が言っているのは、大間々地区の人が笠懸地区のことに口を出してもいいではないかということではありません。配置計画そのもの、子どもの分布、こういったことを考えてどの辺に学校を建てたらいいのか、計画そのものをみどり市として作らなければいけないと思います。垣根を越えた計画を作らなければいけないと言っているのです。笠懸で作った計画に口を出してよいという次元で言っているのではないです。笠懸も大間々もこれだけのエリアがあって、人口分布がこうなっていて、本来理想的にはこうあるべきだろう、けどたまたまこうなっているね、でもここに空き教室があるよね、これをどう使おうか、町境関係なしに通学路があってもいいでしょう。計画を笠懸だけで考えれば笠小を作ろうということになってしまいます。一体で考えれば、ここに空き教室があるからここを使おうという発想になるはずです。原案を作る時点で空き教室の数や子どもの分布がどうなっているのかについて調整したらどうかと言っています。最初の原案が地区別になっているから笠小を作ろうということになるのです。しかも、笠小を「作りたい」ということになっています。リフォームしなければ耐用年数が来てしまうならリフォームすればいい。60年の耐用年数を80年にすればいいです。今後20年間の間に人口はまた変わっていくでしょう。なぜ今の時点で作るのか。作ることにする理由付けもおかしいし不自然。近すぎる、夏の猛暑対策、理由にならない。空き教室があるのだからうまく使えばいい、通学バスという便利なものがあるのだから来年からでもできる。学校を作るとなったらできるまで何年も猛暑の中で通わせることになってしまいます。</p>
議長（委員長）	<p>大間々の検討委員会でも協議事項の3番目のところで配置について一定程度議論をして、大間々を見る限りはその方向性がよいという案をこの委員会で検討することの何がまずいのでしょうか。この大間々の検討委員会で学校の配置について今ある問題を、特に大南小の問題をどうしたらいいかということ議論することがなぜ悪いのか私には分かりません。あとは3地区それぞれで進めて行くということではないし、それが決定ではありません。</p>
委員 1	<p>決定ではないけれども、これがOKだと言えれば前に進んでいくわけです。私は前に進んでほしくないのです。それぞれの地区で自分に都合のいい計画、あるいは作成者の労力が少なく済む計画、自分最適、地域最適、そうではない。将来のことを計画するのに労力がかかるのは当たり前です。それが大人の役割です。20年30年後の子どもたちに対する恩送りですね。今は負の遺産を送ろうとしているわけです。作らなくていいものを作ってインフラ整備が遅れるんです。空き教室があるのだから使えばいいじゃないですか。そこで浮いた</p>

	お金を道路建設なり働く場所建設に使ったらいいじゃないですか。
議長（委員長）	その話を、大間々のところについて議論してほしいというのが委員会の趣旨ですよ。
委員 5	さっきホームページで笠懸地区の検討委員会の議事録を読ませてもらいました。笠懸の中にも大間々東小が近いから通わせてもいいのではという意見もありました。中にはそういう考えの人もいるからそんなに意固地にならないで、笠小を作る作らないということはまだそんなに話さなくていいのかなと思います。ただ、いただいた資料を見ると、笠小が昭和44年に作られて築年数が55年で目標使用年数が60年、大間々中学校が昭和45年建築で築年数が54年で目標使用年数が60年。この2校だけが60年なんです。他は皆80年で記載してあるということは、笠小も大間々中も同じように80年使えばいいのかなと。笠小だけ60年だからリフォームします、大間々中は60年だけ直さない、というわけにはいかないでしょう。同じみどり市の町なのだから。という意見を私は言いたいです。
委員 4	大間々の北小と南小を統合して小学校を2校にして中学校を1校にしていくというのは、大間々の中で考えればこのようになると思います。その頭に市の一体感の醸成が乗っかっているから、一体感の醸成だったら大間々の中だけで考えて答えを出してしまうと協議事項の目的が裏腹になってしまう気がします。大間々地区の意見と笠懸地区の意見があって、それについては境界線が存在していて、修理するにしても新しく作るにしても今までであるところが基準になります。もっと先の将来図として、今まで学校はなかったけれどここに作るのが最適だよねみたいな話し合いの中で、その前段階として直近については南小の問題もあるからこの形でフンテンポ置くというように、2段階で考えていくのはどうか。大間々の意見として学校の在り方はこうです、一体感をみんな醸成していきましょうという考え方は、いわゆる抱き合った内容ではないと思います。だから余計にこんがらがってしまうのだと思います。
委員 1	笠懸だけで計画を作ればこういう計画になる。大間々だけで計画を作ればこうするしかしょうがない。これでは大間々最適、笠懸最適だけれどもみどり市最適にはならないと言っているのです。みどり市の計画になっていないから。笠懸の計画、大間々の計画、それをお互いに口出ししない。その方が丸く収まるかもしれないが、それでいいのですか。だけど、教室や校舎といった設備・資源から考えれば、空き教室を有効活用することを我々は考えます。しかも、笠懸もみどり市です。一体で考えれば、笠懸に小学校を作る、大間々は統合するという解、答えにはならないでしょう。笠懸の答え、大間々の答えであって、みどり市の答えではない。みどり市の最適な解ではないと思います。
議長（委員長）	そうでしょうか。
委員 1	なぜみどり市最適にならないかというと、大間々地区には空き校舎があるのだから、空き校舎を有効活用すれば笠懸で建物を作る必要はないということが、私の一貫した主張です。笠西小を作る時からずっと一貫した考えです。空き教

	<p>室があり、通学距離も4km未満で徒歩通学圏内なのだから。方や大間々地区は北部からバス通学を行っています。大間々と笠懸の間でも小さい子どものためにはバス通学をさせてもいいではないか。バス通学をさせればすぐにマンモス化は解消できます。笠西小を作る必要はなかったのです。同じことをやろうとしているのです。</p>
委員3	<p>全く違う話をします。大間々町出身で大間々北小と大間々中の出身者としてその立場でお話をします。年末に赤城駅前のうおふじで忘年会を開いたのですが、その時に集まったのが大間々北小1年1組のクラスメイトです。私は今年で47歳になるのですが、その時の友だちがまだつながっています。当時1年生が27人いて、その中の5人の仲間が今もつながっていて、年に1回は必ず顔を合わせて1年のことをいろいろ話したりして、うおふじでいい時間を過ごしました。ふと思ったのですが、大間々北小の児童はそのまま大間々中に進学します。一方で今問題になっているのが大間々南小の子どもたちです。大間々中に進学する児童と大間々東中に進学する児童がいて、必ず彼らは毎年涙の卒業式をするわけなのですが、多分自分が南小にいてバラバラになってしまったら、あの飲み会はなかったのかなと思います。今年度大間々南小に入学した子どもたちは9人です。9人といふところ数年で一番少ないのでしょうか。10人を割り込む子どもたちがこのまま6年間を過ごして、卒業式のあとどうなるのか、おそらくその運命を握っているのは私たちなのではないかと思います。少なくとも先ほどスケジュールの話を聞いて結論が1年持ち越しになりましたから、この9人が同じ空間で学ぶことができるのか、それとも分断されてしまうのかという観点も考えたいものです。計画の作り方やいろいろな思い・ご意見があるのは承知していますが、一方で子どもの一日は今日しかなくて、一年一年大きくなっていきますから、時間の制約というものも一方ではあるのではないかと思います。自分は幸せにも当時の友だちとつながっていられますが、この9人の子どもたちの未来も考えなければいけないなと思います。</p> <p>また全く違う話ですが、「一体感の醸成」という言葉は私が言ったのだと思います。これについては反省をしています。ミスリードになってしまうところがあつたら適宜修正していただけたらと思います。</p>
議長（委員長）	<p>委員3さんのご意見に対する応答でもかまいませんし委員1さんのご意見に対する応答でもかまいません。いかがでしょうか。</p>
委員2	<p>委員3さんの件で言うと、気持ちは分かりますが、人生が進んでいったときに、中学の進学先が分かれてしまったから俺の人生うまくいかなかったとは言いたくないと思います。その状況でもどう道を切り開いていくかを教えるのが教育だと思うので、その状況でもやれる子を育てていけるようにすればいいと思います。だからそこはそんなに加味せずに、適正規模・適正配置の考えで進めていくのがよいと思います。それから、今回は議論が小さいとっていて、つまらないと思います。適正規模・適正配置の会議ですけど、適正学校というか、そもそも学校というものをもう少し考えてここで議論できて答申できたら、</p>

	より教育委員会にプレッシャーをかけられるんじゃないかと思います。私は、人口推移については10年20年先はほぼ読めないと思っています。この読めない中で人口推移を作りに行くような学校を提案できないかと思っています。例えば、大間々の商店街そのものを学校にしてしまって空き店舗をそれぞれ教室にして、地域の皆さんがそこで教壇に立って先生になり、給食は商店街の食堂で食べるみたいなことをやったらどうかと。全国的に商店街が学校になっているところはないわけなので、そこに人が集まってももしかしたら新しい再生が起こるかもしれません。だから、学校を軸にして人口と教育を再生するみたいな、それくらいのことを答申として示すことができれば面白いと思いますし、そういう未来だったらワクワクすると思います。
議長（委員長）	かなり大胆なご意見ですね。
委員 2	それくらい極端なことを言わないと進まないと思ったので。前回の会議と同じことを話しているなというのが個人的な感想です。だからあえて極論を言いました。
議長（委員長）	今のご意見につながってご発言いただいてもかまいません。いかがでしょうか。
委員 5	もう協議事項の3と4をやりましょう。前回給食センターのことができなかったから給食の話をしましょう。
議長（委員長）	先ほど協議事項の2から3に入りかけたと思います。第4回も行うことになっていますので、今日は給食提供方式についての協議に入りたいと思います。まずは事務局から説明をお願いします。

(3) 大間々町における学校適正規模・適正配置について

- ・(4) 給食提供方式についての協議を優先するため、次回委員会に持ち越し。

(4) 給食提供方式について

- ・事務局より給食提供方式を協議事項として挙げた経緯について説明。
- ・事務局より【前回資料：給食提供方式方針決定資料】について途中まで説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発言内容
委員 1	論点は自校方式にするかセンター方式にするかだけの問題でしょう。それについて、設備が老朽化している等の問題があるわけでしょう。ならば答えは簡単です。自校方式は一村一校の名残でしょう。それをずっと続けているのが笠懸です。大間々地区は2校3校になった時点でセンター方式になっています。世の中の流れは、学校が複数になればセンター方式になるのは普通の流れです。議論するような問題ではないと思います。
議長（委員長）	決して昔の名残ではないです。すべてがセンター化するわけではありません。例えば高崎市は食育に力を入れていて、全校を自校方式でやろうとしています。そういったことがある中でみどり市としてはどうするかということを検討して

	きて、その検討のプロセスを説明してもらおうということです。続きをお願いします。
--	---

- ・事務局より【資料：学校給食提供方式検討結果】の続きを説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発言内容
議長（委員長）	大間々地区につきましては、すでに給食センター方式になっているわけですが、そのうえでこのことが議題に上がっているのは、笠懸でも自校方式かセンター方式かという議論があって、みどり市全体が給食センター方式をとろうとしているということが一つ。それと、「みどり市学校給食提供方式に関わる栄養教諭配置の現状」という資料をご覧ください。給食は、作ったものを子どもたちに与えるだけではありません。学校給食法というものが改正されて、食育の内容がかなり入ってきました。食育につきましては栄養教諭という先生がいらっしゃるのですが、その配置状況が給食センターの場合薄いという状況があります。笠懸につきましては、笠小に1名、笠東小に1名配置があって、その方が他の学校を1校ずつ兼任するような形をとっています。それが、大間々と東につきましては、大間々東中にいらっしゃる先生がセンター方式の学校全部を回っています。明らかに栄養教諭が手薄なのです。そういった配置問題があります。給食が食べられればよいというだけでなくそこにおける食育の問題が入ってきます。このことについては、私個人の考えですが、給食センター化するけれども栄養教諭や学校栄養職員の配置に厚みをもたせないとよくないと思います。給食センター化すると人的配置が薄くなってしまおうという現状があるということをお話しておきたいと思います。このことを含めて給食問題について皆さんの方からご質問やご意見をいただきたいです。
委員1	栄養教諭の配置のありなし、これは自校方式だからセンター方式だからこうなっているというふうにはこの数字からは見とれない。たまたまこういう配置だった、気を配っていなかったということでしょうか。それはそれで今後統一すればいいという話ですね。そうすると、食育には両方に丸がつくと思います。自校方式でもセンター方式でも食育に差はないですよ。
議長（委員長）	高崎市の例を挙げると、一つの学校に一人の栄養教諭あるいは学校栄養士がいらっしゃいます。そういう方針をとっているところもあります。その中でみどり市はどんなことができるだろうかということを検討していくわけです。
委員1	そういう問題提起をするということですね。私も同感です。それと、資料の右上の評価項目の「栄養バランスに配慮したおいしい給食」について、自校方式には丸が付いていてセンター方式には丸が付いていないけれども、そんなことはないと思います。センター方式の給食は学校運営協議会でよく食べていますけれども立派なものです。それと、今の給食は設備と技術のレベルが上がっていると思います。そういったことも考えれば、センター方式が望ましいと思います。自校方式に劣らないと思います。私は一村一校の名残だと言って委員

	<p>長さんはそうではないと言いましたけれども、一村一校にこだわってきたからこうなったのだろうと思っています。2校3校になったときに誰かジャッジする人がいたのかいなかったのか、その違いでセンターと自校が出てきたのだと思います。今になって思えば、給食の設備も技術もレベルが上がってきているのだから、どの観点で比較しても遜色ないしコストも安いのだから、センター方式が好ましいという結論になるだろうと思っています。</p>
委員 4	<p>結論から言えば私もセンター方式でいいと思いますが、今自校方式をとっている笠懸の5校がセンター方式になった場合、大間々のセンターだけで間に合うのでしょうか。それとももう一つセンターを作りましょうという話なのでしょうか。</p>
事務局 3	<p>アレルギー対応の給食の提供については現状では限界がありますので、そういったことも考えながら新たな施設についても検討していきたいと考えています。</p>
委員 4	<p>ではセンター方式にした場合はもう一つセンターを作りましょうという流れになるということですか。</p>
事務局 1	<p>今回給食提供方式について議題に挙げていただいたのは、今後施設の老朽化により新しい設備を作る場合にはセンター方式で作りたいということです。</p>
委員 1	<p>概算費用の比較を見ると、どういう人数単位で出しているか分からないけれどもセンター方式の方が明らかにコストダウンできるわけです。そうすれば、採算計算で決めるという手もあるし、現在の自校給食施設が老朽化してどうにもならなくなって、大間々の給食センターをできるだけ使っても間に合わないからセンターをもう一つ作ろうという流れになるのだと思います。今ある自校方式がどこまで使えるのかということと、あるいは割り切って新しいセンターを作ったほうがコストダウンできるのか、設備投資をしてもランニングコスト2, 3年で回収できるのか、そういった計算になると思います。採算計算なしに建てるかどうかを決めるのは税金の無駄遣いになると思います。採算計算をして、なるべくコストダウンをして、センター方式にする時期を決めていただきたい。老朽化にらみとランニングコストにらみ、建設費とランニングコストの比較、こういったところで判断していただきたいということです。</p>
議長 (委員長)	<p>方向性としましては、今の大間々の給食センター以外に作るという方向です。その中に、現在の自校方式の給食室の老朽化の問題を検討しつつ、新しく作る場合の経費も含めながら検討を進めてほしいという意見ですね。</p>
委員 5	<p>桐生は一か所で市内全部給食を出していると思いますが、みどり市は大間々だけではできないから笠懸にも作って、二か所で給食を作るということになりますか。それとも大間々に集中させるのですか。その辺りのことを知りたいです。</p>
事務局 1	<p>今の段階ですと、笠懸地区の学校の施設が老朽化している中で全体的にセンター方式にしていくには、大間々の給食センターの規模を考えると間に合わないの新しい施設を検討していきたいと考えています。</p>

委員 1	センターを笠懸に作るのか、大間々に作るのか。おそらく敷地があれば大間々に作る方が有利、コストダウンになると思います。なるべくなら大間々地区の敷地の中、あるいは星野物産に頼んで敷地を譲ってもらってでもそこで大規模な給食センターにする方が間違いなくコストダウンできるだろうと思います。
委員 5	私が聞きたいのは、もう一か所作ったとして、新しいところ一か所で市内全部の給食を提供するのか、二つの施設で提供するのかということです。私はセンター方式に賛成です。高崎市の話がありましたけれど、この間火事になって児童が大変な思いをしていました。センター方式であれば、例えば火事になったとしても児童が非難したり危険が及んだりしないでいいと思います。あと、私も一応みどり市学校給食運営委員会のメンバーの一人なんです。前回出られなかったのですが、議事録を読むと、食育の先生から、麺とパンの時があって、栄養上器が小さいから二つ提供するという回答がありました。そうすると、器の問題を言うのであれば、センター方式で1つの器で用が済むような給食を提供すればいいと思います。これが自校方式を続けてきた笠懸の職員の意見ということになると、無理して自校方式にする必要はないのかなと思います。あと、4, 5年前にPTA会長をやらせてもらってそのときにも言わせてもらったのですが、「おいしい給食」の「おいしい」の基準がいまだに分かりません。10歳の子どもの味覚と30歳40歳の大人の味覚は多分違うと思います。栄養バランスというのは理解できますけど、「おいしい」という言葉に関しては、そんなに無理して「おいしい」を前面に出さなくてもいいのではないかというのが私の個人的な意見です。しいて言えば、センターを作るとしたときに1箇所になるのか2箇所になるのかだけ教えてください。
事務局 1	この議論につきましては、センター方式にしていきたいという考えが大前提で、子どもの数が減ってくる中で一つのところで間に合うかどうか、または例えば災害が起こったときにそれぞれのところでやり取りができるように二つにしておいた方がいいのか、そういった議論は、これから先センター方式で行くことを認めていただければ議論していきたいと考えていますので、今の時点で一つにするのか二つにするのかといった議論は行っておりません。
議長（委員長）	時間が10分ほど過ぎましたが、ご発言されたい方はいらっしゃいませんか。そうしましたら、この給食提供方式の問題についても、センターを新しく作るということも含めながら再度第4回でも検討・確認をしていくという形になるかと思います。それでは、今日のところの協議事項は以上になります。

4 諸連絡

第4回委員会 日時 令和8年5月下旬～6月に開催予定 19:00～
会場 大間々庁舎 3階 大会議室

5 閉会